1．小学校社会科における指導事例

第４学年「自然災害から人々を守る活動」

1．単元の目標

自然災害から人々を守る活動について，過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，聞き取り調査をしたり，地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ，災害から人々を守る活動を捉え，その働きを考え，表現することを通して，地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決し，学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

2．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり，地図や年表などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，災害から人々を守る活動を理解している。 ②　調べたことを年表や文などにまとめ，地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしていることを理解している。	①　過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，問いを見いだし，災害から人々を守る活動について考え表現している。 ②　自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて学習したことを基に，自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	①　自然災害から人々を守る活動について，予想や学習計画を立て，学習を振り返ったり見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 ②　学習したことを基に，地域で起こり得る災害を想定し，日頃から必要な備えをするなど，自分たちが協力できることを考えようとしている。

3．単元における「主権者教育の充実」に向けた指導のポイント

⑴　市役所職員の話をもとに作成した教材を活用すること

単元を通して市役所職員の話をもとに作成した教材を活用し，市役所の働きを具体的に示す。また，市役所と，国や県，関係機関，地域の人々との関わりを示すことで，関係機関や地域の人々の協力や働きを捉えられるようにする。これらにより，社会で起きている事柄に興味・関心をもたせるようにする。

⑵　現実の政治に関わる具体的な社会的事象を取り上げること

東日本大震災を例に，自然災害から人々を守るために，地方の政治を担う県庁や市役所が果たす役割について，津波に対する備えとして県や市が中心となって整備した海岸堤防やかさ上げ道路などを具体的に取り上げる。そのことにより，人々の生活が政治の働きによって守られていることや，自分たちの生活と政治の働きとが密接に関わっていることを実感できるようにする。

⑶　議論を通して多角的に考えること

課題解決の場面で県や市（公助），地域（共助），家庭（自助）それぞれの取組やつながり，協力関係について話し合い，まとめるとともに，選択・判断の場面でも学習したことを基に公助・共助・自助の視点をもって議論をすることで多角的に考える。このことにより，社会の形成に参画する基礎を培うようにしている。

4. 指導計画（全 10 時間）

学習過程	○主な学習活動　・児童の反応	◇指導上の留意点　■資料 ☆評価規準【観点】（評価方法）
課題把握	①　**問い：A 県では，どのような自然災害が起きてきたのだろう。** ○過去に A 県で起きた自然災害について，経験を基に話し合い，災害年表で調べる。 ○市民のアンケートから，多くの市民が地震災害に不安を感じていることを知る。	■自然災害年表　■被害の様子（写真） ◇地震が多いことに気付くようにする。 ■防災に関する市民意識アンケート ☆年表などの資料で調べ，災害から人々を守る活動を理解している。 【知①】（発言・ノート）
	②　**問い：地震によってどのようなことが起き，誰がどのようなことをしたのだろう。** ○東日本大震災について調べてまとめる。 ○家庭で聞いて調べたことをもとに整理する。 ○東日本大震災の際の対処を調べる。	■災害年表（地震）　■被害の様子（写真） ■国，県，市の対応，連絡の仕組み ■市役所職員の話　■町内会長の話 ☆年表などの資料で調べて，災害から人々を守る活動を理解している。 【知①】（発言・ノート）
	③　**問い：東日本大震災の後，人々はどのような願いをもっているのだろう。** ○被災者の願いや地震発生確率から学習問題を考える。	■地震による被害（写真） ■ A 県の地震の発生確率
	学習問題　人々の願いに応え，地震から命やくらしを守るために，誰がどのようなこと（備え）をしているのだろう。	
	○学習問題の解決に向けた予想をし，学習計画を立てる。	◇予想を公助・共助・自助に整理してまとめるようにする。 ☆学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て，解決の見通しをもっている。 【態①】（発言・ノート）
課題追究	④⑤　**問い：県や市は，人々の願いに応え，地震から命やくらしを守るためにどのような取組を行っているのだろう。** ○「東日本大震災の公助による救助人数」から，公助の役割について考える。 ○県や市の取組を予想する。 ・津波を防ぐ対策をしているのではないか。 ・避難の情報を発信しているのではないか。 ○「津波避難エリアと避難場所マップ」から，県や市の取組（津波への対策）を調べる。 ○市役所職員の話から，市の取組を読み取る。	■東日本大震災の公助による救助人数 ■津波避難エリアと避難場所マップ ■市役所職員の話　■ B 市地域防災計画 ■海岸堤防，かさ上げ道路，避難の丘，津波避難タワー（写真） ◇取組を調べる際は，取組の目的を考えさせ，人々の願いとつながっていることを意識できるようにする。 ☆今後想定される災害に対し，市が様々な備えをしていることを理解している。 【知①】（発言・ノート）
	○「B 市防災ハザードマップ」から，県や市の取組（防災情報の提供）を調べる。 ○市役所職員の話から，市の取組を読み取る。	■防災ハザードマップ　■市役所職員の話 ◇取組の目的を考えさせ，人々の願いとのつながりを意識できるようにする。 ☆今後想定される災害に対し，市が様々な備えをしていることを理解している。 【知①】（発言・ノート）

学習過程	○主な学習活動　・児童の反応	◇指導上の留意点　■資料 ☆評価規準【観点】（評価方法）
課題追究	⑥　**問い：地域では，地震から命やくらしを守るためにどのような取組を行っているのだろう。** ○「自主防災活動の手引き」や町内会の方の話を基に地域での取組（備え）を調べる。 ○「阪神淡路大震災の際の救助をした人の割合」から，共助の役割について考える。 ○市役所職員の話から，共助の役割について読み取る。 ○調べたことをもとに，学習のまとめをする。	■自主防災活動の手引き ◇防災・減災の取組だけでなく，人と人とのつながり，関係づくりにも取り組んでいることに気付けるようにする。 ■阪神淡路大震災における救助の主体と救出者数 ■市役所職員の話 ◇地域の活動への参加を振り返らせることで，自分も地域の一員であることを感じられるようにする。 ☆今後想定される災害に対し，地域が様々な備えをしていることを理解している。 【知①】（発言・ノート）
	⑦　**問い：私たちの家庭では，地震から命やくらしを守るためにどのような取組を行っているのだろう。** ○「わが家と地域の防災チェック」や家族から聞いてきたこと，自分の経験を基に家庭で行っている取組（備え）を調べる。 ○市役所職員の話から，自助の役割について考える。	■わが家と地域の防災チェック表 ■家族へのインタビュー ■市役所職員の話 ◇家庭の取組を振り返り，自分の防災への備えを考えられるようにする。 ☆今後想定される災害に対し，家庭が様々な備えをしていることを理解している。 【知①】（発言・ノート）
課題解決	⑧　**問い：地震から命やくらしを守るため，県や市，地域，家庭はどのような取組を行っているのだろう。** ○これまで調べて分かったことを話し合い，整理する。（公助・共助・自助） ○整理したことを関係図にまとめ，それぞれの関係，つながりについて考える。	◇これまでの学習を振り返りながらそれぞれの取組の共通点に気付くことができるようにする。 ☆災害から命を守るためには，公助・共助・自助の取組が大切なこと，協力して様々な備えをしていることが分かる。 【知②】（発言・ノート）
	⑨　**問い：B市はどうして「防災ちゃんねる」や「B市防災のひろば」といった取組をしているのだろう。** ○「防災ちゃんねる」や「B市防災のひろば」の取組は，なぜ行われているのか話し合い，理由を考える。 ○市役所職員の話を聞き，市役所職員の願いや課題（防災意識や関心が低い）を考える。	■B Tube ■B市防災のひろば（チラシ） ■市役所職員の話 ◇防災意識を高める様々な取組が行われていることに気付けるようにする。 ☆市の取組に着目して，問いを見いだし，災害から人々を守る活動について考え表現している。 【思①】（発言・ノート）
	⑩　**問い：人々の願いにこたえ，地震から命やくらしを守るために，私たちはどのようなことができるのだろう。** ○防災意識を高めるための県や市の取組について話し合い，防災意識を高め，地震から命やくらしを守るために自分たちにできることは何か考え，話し合う。 ○地震から命やくらしを守るために自分たちにできることについて自分なりの考えをまとめる。	◇これまでの学習を振り返り，「私たちにできること」を理由と共に具体的に考えられるようにする。 ☆学習したことを基に，地震から命やくらしを守るために，自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 【思②】（発言・ノート） ☆学習を振り返り，地震から命やくらしを守るために，自分たちが協力できることを考えようとしている。 【態②】（発言・ノート）

5. 授業の実際

第４・５時　県や市の取組（第４時 津波への対策，第５時 防災情報の提供）を調べる。

(1) 第４・５時の展開

第４・５時　県や市の取組

問い　県や市は，人々の願いにこたえ，地震から命やくらしを守るためにどのような取組を行っているのだろう。

東日本大震災では，県や市の取組（公助）によってどのくらいの人が救助されたのかな。

東日本大震災で救助された方の人数

警察庁	消防庁	海上保安庁	防衛省（自衛隊）	合計
3749名	4614名	360名	19286名	26707名

※2011年3月11日～4月19日まで　※重複している場合もある　※出典：内閣府「平成23年版防災白書」

☆公助の役割の大切さを捉えさせる資料

消防や自衛隊などの公助によってたくさんの命が救われたのですね。救助の他に，県や市は，どのような取組をしているのかな。

第４時

予想　津波を防ぐための対策をしているのではないかな。

【津波避難エリアと避難場所マップ】

よく通る道路やよく遊ぶ公園の中に，県や市によって作られた津波の被害を防ぐための設備があることが分かりました。

県や市では，防災計画を基に海岸堤防やかさ上げ道路などを作って津波による被害を少しでも減らすようにしています。

しかし，それだけでは被害を防ぐことはできません。小学生のみなさんや市民の方一人一人が津波や地震の情報を知り，素早く避難することがとても大切です。

市役所
○○さん

県や市は，地震や津波に備えて堤防やかさ上げ道路などを整備してくれていました。しかし，私たちが避難することが大切なので，地震や津波が来たら素早く避難しないといけないと思いました。

第５時

予想　県や市は，避難するために必要な情報を発信しているのではないかな。

テレビやラジオ，メールなど様々な方法で避難などに必要な情報を発信してくれていることが分かった。でも，どうして様々な方法で伝えるのだろう。

県や市では，テレビ局などと協力して様々な方法で必要な情報をいち早く伝え，少しでも被害を減らせるようにしています。

災害の時にはメールが届かなかったり，近くにテレビがなかったりすることも考えられます。また，高齢者，外国人など人によって情報を入手する方法は異なります。そのため，様々な方法で情報を発信しています。

市役所
○○さん

県や市は，子供や高齢者，外国人など様々な立場の人のことを考え，メールやテレビ，ラジオなどの方法や，外国人のために英語でも避難などに必要な情報を発信していることが分かりました。

⑵　第４・５時のまとめの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考　察
第４時	
○（東日本大震災の時に）消防や自衛隊などに助けられた人がこんなにもたくさんいると思いませんでした。県や市が津波を防ぐための取組をたくさんしていると思いました。	県や市が行う政治の働きを理解している。また，人々の命やくらしが政治の働きによって守られていることや，自分たちの生活と政治の働きとが密接に関わっていることを実感している。
○県や市は，命やくらしを守るために防災計画を作ったり，避難エリアを決めたりいろいろな取組をしていることが分かった。避難するための場所が思ったよりもたくさんあった。	
○県や市は，住民を守るために堤防や津波避難タワーを整備するなど，いろいろなことをしてくれていることが調べてみて分かりました。そして，私たちが素早く避難することが大切なので，地震や津波が来たら素早く避難をしたいと思います。	県や市が行う政治の働きを理解した上で，災害を自分との関わりで考え，自分自身ができることを実践していこうとする意欲を高めることができている。
○県や市は，かさ上げ道路や避難の丘の整備など，いろいろな取組をしてくれていたので，自分もしっかりと対策をしたり，家族で避難の計画を立てたりしなくてはいけないと思いました。	
第５時	
○県や市は，テレビ局などいろいろな会社とも協力をして私たちの命やくらしを守ってくれていることが分かりました。私たちは県や市が発信してくれる（災害に関する）情報を大切に使って自分やその他の人の命を守りたいと思いました。	県や市をはじめ，関係機関などがこれからの災害に備えていることや，県や市が様々な立場の人々や状況を考えて取組を進めていることなど，被害を減らすために様々な機関や人々が努力していることを理解している。その上で災害を自分との関わりで考え，積極的に関わろうとする意欲を高めている。
○県や市が高齢者や外国人など，いろいろな（立場の人々の）ことを考えてテレビやラジオなど様々な方法で（災害に関する）情報を発信し，命を守っていてすごいと思いました。テレビ局などとも協力して（災害に関する）情報を発信していて，県や市がよく考えていることが分かりました。私も災害のときには命を守るために県や市が発信する（災害に関する）情報を使って行動したいです。	

⑶　第４・５時の考察

資料「東日本大震災の公助による救助人数」を使って具体的な数値を提示することで，児童は消防や自衛隊といった公助の働きによってたくさんの命が救われたことを理解し，県や市を中心とした政治の働きの大切さを実感することができた。また，第４時でかさ上げ道路や避難の丘といった児童にとって身近なものを取り上げ，自分たちの身近にあるものが県や市によって整備された防災のための施設であったことに気付かせたり，第５時で県や市が発信する災害に関する情報が関係機関と協力し，様々な立場の人々や状況を考えて発信されていることに気付かせたりしたことが県や市の取組への理解を深め，興味・関心を高めた。

さらに，県や市が津波への具体的な対策や防災情報の発信といった事実だけではなく，児童に向けて市役所職員の願いや想いを話していただき，資料「市役所職員の話」として提示した。事前に県や市が行う政治の働きを意識して描き，政治の働きを十分に理解させた上で市役所職員の願いや想いを提示したことが，自然災害から人々を守る活動と自分との関わりに切実感をもたせ，災害を自分との関わりで考え，自分自身ができることを実践していこうとする意欲につながった。

第６時　地域の取組を調べる。

(1)　本時の展開

第６時　地域の取組

問い　地域では，地震から命やくらしを守るためにどのような取組を行っているのだろう。

予想　町内会の人たちで避難訓練などを行っているのではないかな。

防災訓練の他にもさまざまな交流を行い，いざという時にみんなで助け合える関係をつくっています。

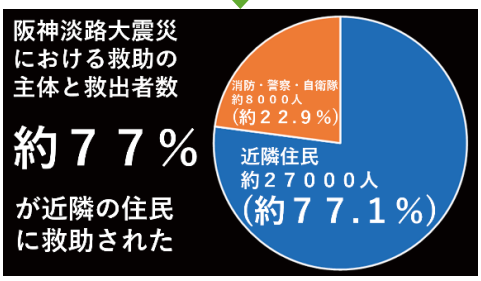
町内会
○○さん

地域では，自主防災組織を作って様々な訓練を行ったり，みんなで集まって交流会をしたりして，助け合える関係をつくっていることが分かりました。

県や市では，地域で行われる防災訓練へアドバイスしたり，防災の話をしたりして共助のお手伝いをしています。

市役所
○○さん

では，公助によってたくさんの命が救われているのに，どうして共助や自助が必要なのだろう。



☆共助・自助の大切さを捉えさせる資料

共助や自助がこんなに大きな役割を果たしているなんて思いませんでした。地域や家庭での取組が大切な理由が分かりました。

大きな災害のときには，共助や自助がとても大切です。東日本大震災のときには，多くの住民の方から 119 番通報がありましたが，あまりにも多く，助けに行きたくてもすぐに駆けつけることができませんでした。救急隊などの助けを待っていては，命は助けられないことがあります。だからこそ地域の人や家族が協力することが大切です。

市役所
○○さん

県や市の方は防災訓練のアドバイスなど，共助にも関わってくれていることがわかりました。公助はとても大切だけど，大きな災害のときには「助けたくても助けられない」ことがあるから，私も地域の取組に協力していきたいです。

(2)　本時のまとめの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考　察
○大きな地震のときには救急隊は助けに行きたくてもすぐには来られないので，近所のみんなで協力したい。	公助の限界を理解した上で，自分自身が共助の主体としてできることを考えて実践していこうとする意欲を高めることができている。
○県や市だけではなく，命やくらしを守るために地域も災害に備えていることが分かった。自分も地域で行われるいろいろな訓練に参加したい。	

(3)　本時の考察

資料「阪神淡路大震災における救助の主体と救出者数」を使って具体的な数値を提示することで，災害の時，共助や自助の役割の大きさを理解することにつながった。また，市役所職員の話によって児童はより切実感をもって共助や自助の重要性について考え，自分自身が主体となって救助に関わったり，地域の人と協力したりする意欲を育むことにつながった。

第７時　家庭の取組を調べる。

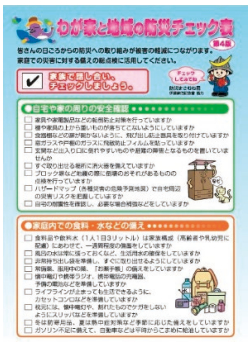
(1)　本時の展開

第７時　家庭の取組

問い　家庭では，地震から命やくらしを守るためにどのような取組を行っているのだろう。

私の家では地震で家具が倒れないようにしています。他にはどんなことをしているのかな。

予想　東日本大震災のときには，電気，水道，ガスがしばらく使えなくなったと，お母さんが言っていました。そういう時に困らないように何かしているのではないかな。



災害用伝言サービス

家庭では，家具などの転倒防止対策をしたり，電気，水道，ガスが使えなくなった時のために水や食料などを備蓄したりすることができることが分かりました。

災害用伝言サービスの利用など，大きな地震が起きたときの話を家族としたり，約束を決めたりしたいと思いました。

市では，「わが家と地域の防災チェック表」を作って共助だけでなく，自助にも働きかけてくれています。

地震などの災害に備えていろいろな準備をしていくことはとても大切なことです。

それと同じくらい大切なことは，過去の災害を知り，伝え，広めていくことです。実は大きな地震と津波は過去に何度もありました。しかし，時間と共に多くの人は過去の災害のことを忘れてしまいます。

だからこそ，みなさんには，過去の災害のことを知り，伝え，広めていってほしいと思います。そして，これからいつ起きるか分からない災害から，大切な人やくらしをみなさん自身で守ってほしいと思います。

市役所
○○さん

東日本大震災など，過去の災害を知り，伝え，広めることも災害から命やくらしを守ることにつながります。私たちも地震への備えはもちろん，過去の災害について学んでいきたいと思います。

(2)　本時のまとめの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考　察
○備蓄をしたり，避難所を把握したり家庭でできることがたくさんある。家庭での取組は大事なので自分で命やくらしを守るためにも備蓄をするなど，確実に備えていきたい。	家庭での取組を理解し，学習したことを基に自分の生活と関連付けて考えることができている。自然災害に備えて自分ができることを考えるなど，積極的に自助に関わろうとする意欲を高めている。
○自分の家ではほとんど防災の取組をしていないように思うので，家の人に聞いて確認してみたい。そして，取り組んでいないことを取り組んでみようと思う。	

(3)　本時の考察

市役所職員の「大切な人やくらしをみなさんが守ってほしい」といった想いや子供へのメッセージを知らせることで，自然災害から人々を守る活動と自分との関わりに切実感をもたせることができた。そして，その活動に自分たちも貢献できることに気付き，自ら実践しようとする姿につながった。

第９時　学習してきたことを基に，県や市の取組の意味について考える。

(1)　本時の展開

第９時　防災意識を高めるための県や市の取組

問い　県や市は，どうして「防災ちゃんねる」や「防災のひろば」といった取組をしているのだろう。

☆防災意識を高めるための県や市の取組

予想　どうしてだろう。子供から大人まで楽しく防災について学べるからじゃないかな。楽しくないとなかなか興味を持ってもらえないのではないかな。

予想　県や市の取組を調べたときに，避難に関する情報を高齢者や外国人など，より多くの人に伝わるように，様々な方法で伝えていたね。この取組は動画サイトを使っているから。特に若い人に伝えようとしているのではないかな。

みなさんの防災意識や防災への関心を高めてもらうことが，地震などの災害から命やくらしを守る上で重要です。防災の仕事をしていて感じることは，市民のみなさんに，災害を自分事として捉えてもらうことの難しさです。災害が起きても**「自分は大丈夫だろう」**と思っている人が多いように感じます。市民のみなさんの命を守るためにも，防災への意識や関心を高める取組をこれからも続けていきたいと思います。

市役所
○○さん

私もこれまで「自分は大丈夫だろう」と思ってしまっていました。市役所の方は防災の大切さについて住民のみんなにいろいろな工夫をして伝えているのに，それを見たり聞いたりせず，災害が来ても助かるだろうと思っています。防災の大切さについて私もたくさんの人に伝えたいです。

(2)　本時のまとめの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考　察
○市役所の方が頑張っているから私たちも協力しないといけない。自分は大丈夫と油断せずに災害のときにはみんなで協力して避難してほしい。大げさだと思うけれど，大げさに考えないといけない。	市の取組に着目し，防災意識を高めていくことが課題であることを捉えるとともに，市が防災意識を高めるために様々な努力をしていることを理解している。その上で課題を自分との関わりで捉え，学習してきたことを基に考えたことを表現している。
○市役所の方は全力でみんなに防災の大切さや過去の災害について伝えていると思った。しかし，みんなは助かるだろうと思っている。防災の大切さや過去の災害についてみんなに伝えたい。	

(3)　本時の考察

単元を通して市役所職員の話を活用してきたことで，児童は市役所の働きについて理解し，県や市が自然災害から人々を守るために様々な取組や努力をしていることを感じることができた。こうして県や市の働きを意識して描いていくことが，県や市の働きを理解し，その努力を感じさせるとともに，防災意識を高めるという課題を自分との関わりで捉えることにつながった。課題を自分との関わりで捉えたことで，自然災害から人々を守る活動に興味・関心をもち，課題に対して主体的に関わろうとする考えをもつことができた。

第 10 時　学習したことを基に，自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりする。

(1)　本時の展開

第 10 時　地震から命やくらしを守るためにわたしたちにできること

第 9 時の児童の振り返りから，児童自身の願いを確かめ，願いに応えるためにどのようなことができるのかという問いを設定する。	第 9 時の児童の振り返りから，自分たちにできることにつながる考えを取り上げる。	学習したことを基に，より具体的に考えられるように，前時までの学習を振り返る。	学習したことを基に，自分たちが協力できることやその理由を具体的に考えたり選択・判断したりしたことを共有する。【思②】

ハザードマップを見て避難に必要な情報を確認して，災害のときにはすぐに避難できるようにしよう。また，地域の訓練や交流会に参加し，近所の人と接して助け合える関係を作り，みんなで協力して自分や近所の人の命を守りたい。【態②】

(2)　本時のまとめの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考　察
○市役所の方はみんなに防災意識を高めてもらおうと必死に頑張っているので，私もまずは自分の命は自分で守ることを意識して行動していきたいです。避難場所，備蓄があるところをしっかり覚えておきたいです。なぜなら，こうした場所を知っていることで，いざというときに逃げたり，危険な場所を避けたりできるからです。大人になったら（地域の人たちに）呼びかけなどもできると思います。	市役所の方の話を通して，県や市の政治の働きを理解し，その努力を実感している。学習したことを基に，自分にできそうなことを考え，自分自身が自然災害から人々を守る活動の主体として積極的に関わろうと意欲を高めている。
○避難することの大切さを近所の人に広める。もし災害が起きたら逃げることを知らせたり，津波が来ることを知らせたりして無理矢理にでも避難させる。自分だけ助かればいいと思わず，周りの人を見捨てないで少しでも助けたい。ちょっとでも（避難することの大切さを）広めたい。このちょっとだけが少しの力になる。知らない人とも助け合いたい。どんな人とも災害のときは助け合いたい。みんなの命を大切にしたい。	自然災害から人々を守る活動を自分との関わりで考えられたことが，切実感をもった児童自身の言葉として表れている。また，自分自身が自然災害から人々を守る活動の主体として自分たちができることを考えて実践していこうとする意欲を高めることができている。

(3)　本時の考察

単元を通して市役所職員の話を活用し，県や市で働く人々の願いや想いに触れながら学習してきたことが，自分たちにできることを考える際に切実感をもたせ，自然災害から人々を守る活動を自分事として捉え，主体的に自分

たちに協力できることを考えようとする態度へとつながった。

6. 実践するに当たっての留意点・配慮事項等

⑴ 社会的事象の選択

・本実践では，自然災害として地震災害を選択して取り上げたが，実践を行う地域の実態に合わせた自然災害を選択して取り上げることが大切である。
・自然災害から人々を守る活動において行政が果たす役割は大きい。どの自然災害を選択する場合でも，市役所や県庁など，行政の働きを意識して単元を描いていくことが大切である。
・どの自然災害を選択する場合でも，「公助の役割と共助，自助の重要性」について捉えることが大切である。例えば，課題解決の場面で県や市の防災意識を高める取組を取り上げるなど，自然災害から人々を守る活動における課題に気付かせた上で自分たちが協力できることを考えさせていくことが効果的である。

⑵ 小学校第５・６年の社会科と中学校社会科との関連

この内容は，第５学年⑸「国土の自然災害」，第６学年⑴「自然災害からの復旧・復興」における国や地方公共団体の政治の働き（公助），さらに，中学校社会科公民科「Ｃ　私たちと政治　⑵民主政治と政治参加」にもつながっていくものと考える。この単元を実践する際は，小学校第５・６学年，中学校社会科公民的分野への接続・発展を意識して単元構成することが大切である。

7. 資料・ワークシート等

第４時　・東日本大震災の公助による救助人数（「平成 23 年版防災白書」を基に作成）
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h23/bousai2011/html/hyo/hyo016.htm
・津波避難エリアと避難場所マップ
https://www.city.sendai.jp/hinan/kurashi/anzen/saigaitaisaku/jishintsunami/tsunamihinanmap.html
・仙台市地域防災計画
http://www.city.sendai.jp/kekaku/kurashi/anzen/saigaitaisaku/torikumi/kekaku/bosai.html

第５時　・仙台防災ハザードマップ
https://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/hazardmap.html

第６時　・自主防災活動の手引き
https://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/taisaku/documents/zisyubousainotebiki.pdf
・阪神淡路大震災における救助の主体と救出者数
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/zuhyo/zuhyo00_01_00.html

第７時　・わが家と地域の防災チェック表
http://www.city.sendai.jp/gensaisuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/sonaete/bosai/documents/wagayatotiikinobousaityekkuhyoudai4hann.pdf

第９時　・せんだい Tube
https://www.city.sendai.jp/sesakukoho/shise/koho/koho/sendaitube/index.html